



力畑地区予防治山工事（登米市東和町米川地内）

「登米の森林から」

森林・林業の好循環による地域の健全な森林づくりを目指して！



登米市長
布施 孝尚

▶ 本市の総面積の4割を占める森林は、水資源のかん養、土砂災害の防止や自然環境の保全、地球温暖化の防止、保健休養の場の提供など市民生活に欠かすことのできない多くの機能を有しております。

▶ このような森林の公益的機能について、県の評価額を参考に試算した本市民有林約 19,600ha の価値は455 億 7 千万円となり、市民一人当たり約 55 万円の効用を与えてくれていることとなります。

▶ この大切な森林を次の世代へつないでいくため、間伐等の適正な森林整備や身近な広葉樹林の育成を行う「里山再生事業」を引き続き推進す

るとともに、木材需要の拡大を図るため、市民が市内に市内産木材を使用した住宅等の建築を支援する「地域材需要拡大支援事業」や公共施設木造化・木質化指針に基づき、公共建築物への市内産材の積極的な活用に取り組んでまいります。

▶ また、昨年12月に市有林において取得したFSC森林認証制度を活用し、東京オリンピック・パラリンピックの開催に向けて整備される新国立競技場の建築用材としての供給を目指して取り組んでいるところですが、これを契機として、市内製材所等のCOC認証の取得を進め、認証材の産地化と製品化を推進してまいります。

▶ 先人が一本一本植林し、これまで大切に育てられてきた森林の多くが、いよいよ収穫の時期を迎えています。木を使うことが森林を守ることにつながりますので、これからも地域林業の活性化に向け、様々な施策に積極的に取り組んでまいります。

も り 登米の森林 から 第7号

＜共同執筆・編集＞

宮城県登米地域事務所林業振興部
登米市産業経済部産業政策課
登米町森林組合
東和町森林組合
津山町森林組合

CONTENTS

- ◆ 巻頭言 1
- ◆ 森林づくりの技術 2
- ◆ 森林づくりへの支援 2
- ◆ シリーズ・インタビュー 3
ヤマで働く！
- ◆ ハイ！こちら森林組合 4
- ◆ 登米市NOW！ 5
- ◆ トピックス 6
- ◆ ふるさとの自然案内 7
- ◆ コラム 8



先人が大切に育てた木を使い、森林を守る！

その⑦ 伐ったら植えるをやってみた(保続性の原則)^{ほそくせい}

<保続性の原則>

4つある森林施業の基本原則のうち、今回は「保続性の原則」です。小難しく言うといろいろあるのですが、ざっくり言えば広い意味で、「恵みを与えてくれる森林がそこにあり続けること」、狭い意味では「木材を収穫し続けるようにすること」です。

<伐採・造林一体施業>

定期的な木材の収穫を上げるための方法は別の機会に譲るとして、今回は伐採造林一体施業に絞って述べてみます。

皆伐したら植えないことには続きません。間伐を続けていっても、太くなりすぎると機械作業が難しくなります。木の重さに負けないように重機は大型化しますが、山に道を付けるので、大型機械を通すために道幅を拡げるにも限度があります。いつかは皆伐することになります。伐ったら植えるは、保続原則の第一歩です。皆伐するまでに、何度か収入間伐を行っていて、道が整備されている現場が理想です。理想どおりの所ばかりではありませんが、理想的な所ぐらいは再造林しましょう。不成績造林地や造林不適地は造林しない、という決断も必要です。後々苦勞することになります。



テープを巻いて誤伐防止



伐ったらすぐにコンテナ苗



既存の道があればこそ

さて、一体施業はそもそも伐採後の造林や下刈りを含めて低コスト化・省力化して行きましょう、という考えが基になっています。地拵えは下刈りが危なくない程度にし、植える時期を選ばないコンテナ苗は少々値が張るので誤伐防止の目印（色テープ等）を付けると良いでしょう。

シリーズ・ 森林づくりへの支援

その⑥ 伐ったら植えるをやりたい方へ

◆温暖化防止森林更新推進事業

環境に配慮した伐採地での植栽に補助。
みやぎ環境税を活用
定額（150万円/ha以内）
森林経営計画が未作成である場合は、計画を策定するよう努めること。
事業規模 0.1ha 以上
ha 当たり 2000 本（コンテナ苗は 1500 本）以上植栽すること

◆農山漁村地域整備交付金（花粉発生源対策）

花粉症対策として、スギ人工林を伐採し、花粉対策苗（コンテナ苗）の植栽を行うもの。
国庫補助で実質72%補助
事業規模 0.1ha 以上
伐採と造林に関する事前計画を県に提出する。

※ 詳細は、森林組合または登米地域事務所林業振興部、登米市産業政策課へお問い合わせください。

シリーズ・インタビュー

ヤマで働く！

現在、植林や間伐など森林の造成や整備のため働く人々は県内でわずか 1,400 人ほどです。しかし、こうした方々の活躍が、本県の全国有数の木材生産や多様な森林機能の発揮を支えているのです。このコーナーでは、そのような「普段はあまりお目にかかれないけれど、実は私たちの豊かで安全・安心な生活を支えている」ヤマのプロフェッショナル達をシリーズで紹介しています。

林業の現場から（第7回）

登米町森林組合 作業班

おばま ゆきひろ
小濱 幸宏さん

小濱さんは平成20年6月に登米町森林組合に採用され、現在8年目。仕事には大分慣れてきたところです。

お父さんが大工をしていた関係で、登米町森林組合には小さい時から遊びに行っており、なじみのある場所でした。参事に声をかけてもらったことがきっかけとなり、森林組合で働き始めました。

「木を伐ったり機械を扱うのは男の人なら楽しいんじゃないですかね。思ったとおりに倒せたり機械を動かせたりすると達成感がありますね」

普段は間伐の際の伐採や高性能林業機械のフォワーダを使った伐採木の運搬の作業を担うことが多いとのこと。

森林組合に入って1年目の年に、緑の雇用事業を活用して、チェーンソーの資格や、刈払機の資格を取得しました。

2年目の年に、樹齢数百年の木を倒す現場に訪れることができました。手を回しても届かないくらい太い木を先輩方が伐るのを見たことが強く印象に残っているとのこと。

森林組合では、植栽や下刈など、植えたばかりの木を育てていくための作業も行いますが、植え、育て、収穫し、また植えて…という人工林の適切なサイクルを回していくためには、時には自分よりはるかに長く生きてきた木を伐採する作業も行わなければなりません。重みのある仕事であることと



登米町出身、現在30歳。一番の若手です。



伐採現場から運んできた木材を土場に移動しています



取材に伺った日は伐採した木材を高性能林業機械で土場まで搬出する作業を行っていました



大きいUFOキャッチャーを扱うような感覚で操作しているとのこと。（実際のUFOキャッチャーも上手だそうです）

同時に、安全な作業を心掛けなければいけないと強く認識するようになったとのこと。

「先輩たちは分かんないことがあったら何でも聞け、と言ってくれていたり、失敗した時もしっかりフォローしてくれたので助かりました。」

林業の事は全く知らない状態でゼロからスタートし、最初は何が分からないのかさえわからない状態でしたが、先輩方がしっかりフォローしてくれ、技術を向上させてきました。

「新しく入ってきた人に対しても、自分が教えられてきたように教えられるようにしたいですね」

若手の作業員が森林組合に入ってきたときにしっかりと教えられるように、今後もさらに技術を磨いていきたいとのこと。

とても明るく気さくな小濱さん。きっと後輩に慕われる先輩になると思います。お忙しい中ご対応いただきありがとうございました。

（インタビューー）

県登米地域事務所 技師 大内 環

林業や森林組合への就業については、最寄りの森林組合、または(公財)宮城県林業活性化基金(宮城県森林組合連合会内) 電話 022-217-4307 までお問い合わせください。

ハイ！こちら森林組合！

森林所有者の協同組合である森林組合は、森林（もり）づくりの主要な担い手として、地域の森林が適切に整備・管理されるよう努めています。特に、収穫時期を迎えた木材資源を有効に活用しつつ山林の価値を高める「利用間伐」や「耐久性のある作業道開設」等を推進しており、これらを効率的な作業システムにより低コストで行う「集約化施業」を、県や市と連携して全力で展開しているところです。このコーナーでは、登米市内の森林・林業地域において、森林整備のみならず様々な活動を行っている3つの森林組合の情報やお知らせをお届けします。森林・林業・みどりに関するお問い合わせは、是非森林組合へ！

登米町森林組合

健康と安全確認が作業の基本！

登米町森林組合では「安全はすべてに優先する」を基本理念として、ゼロ災害に取り組んで来ました。健康で災害のない職場づくりの実現のためには、組合と従業員が一丸となって取り組む事が必要であると考えています。そこで当組合では、

- ① 毎年「労働安全衛生管理計画」と「安全衛生月間計画」を定めて計画に基づいて実施する。
- ② 年初に開催する「安全衛生大会」と3月末に実施する「従業員全体会議」で、組合と従業員双方で安全衛生に対する認識を共有する。
- ③ 毎月組合と従業員で共同で実施する「作業場安全パトロール」で作業場（現場）の安全状況を確認して労働災害を未然に防ぐ。
- ④ 2ヶ月に1度「安全衛生委員会」、毎月「班長主任会議」を開催して、作業場安全パトロールの状況を基に更なる安全の為に対策を協議する。

という4点の活動を中心に行っています。

しかし負傷事故の件数は昨年は3件、今年に入り1件が発生しています。安全に対する意識を一層高めてまいります。



従業員全体会議



安全衛生大会にて全員で安全衛生宣言を行う

東和町森林組合

「東和町森林組合 労働安全への取組」

労働災害ゼロを目指し、役職員が参加する安全衛生委員会の開催・安全パトロールを月次を実施し、労働災害防止に努めております。

近年死亡事故も報告されている蜂刺され対策としては、作業前に蜂誘引器を設置しキロスズメバチの女王蜂を捕獲して施行地に巣を作らせないようにするとともに、皮手袋・蜂スプレー・エピペンを支給し作業中の着用・携行を義務づけています。その結果、平成28年度は蜂刺され被害がなく、一定の成果を収めることができたと感じています。



安全保護具

また、炎天下での下刈作業中に発生する恐れがある熱中症対策として、平成28年度にはじめて作業員全員に空調服を支給しました。

日ごろから安全作業を心がけていますが、ヒューマンエラーはつきもので、その防止策として安全保護具の装着は非常に有効な手段であることから、引き続き計画的に装備していく予定です。

本組合の平成26～28年度3カ年の災害発生件数は、各年1件の発生(4日以上の休業)状況となっており、災害ゼロを達成できていませんが、地道な取り組みを継続することにより、重大災害を防止できるものと確信しております。



安全衛生委員会



安全パトロール

津山町森林組合

「無事故・無災害」の継続に向けて

現在、高齢化・山村地域の過疎化に伴い年々林業労働者は減少傾向にあり、通年雇用による労働力の確保を目指し計画的に募集しておりますが、危険な作業というイメージがあり労働希望者がなかなか思うように集まらない現状があります。

山林作業は急傾斜地で常に滑落・落下の危険が伴います。近年、高性能林業機械が導入され、危険率の高い伐採搬出での災害は減少傾向にありますが、林業には、まだまだ人力に頼らざるを得ない部分（造林・保育）が多くあります。そこで、「労働安全」は林業労働者を守る為、一番重要な課題であると思います。



「無事故目標1000日」掲示板

当森林組合はKYを毎日、班長会議を毎月、安全衛生委員会（全体）を二ヶ月に一回、安全衛生大会を半年に一回、現場安全パトロールを随時抜き打ちで実施しております。

安全用具の配備状況については、フェイスガード付ヘルメット・防震手袋・安全スパイク地下タビ（3足）・スネ当て・空調服・自動注射器エピペン（蜂アレルギー対策）の他、最近ではクマの目撃情報も多いことから「熊鈴」も支給しております。



安全作業宣言書

残念ながら平成28年度に労働災害2件（休業4日以上）が発生しました。どんなに安全用具を装備しても、事故は発生を完全に無くす事はできませんが、それでも「無事故目標 1000 日」の掲示板と「津山町森林組合作業員安全作業宣言書」を事務所に掲げ、作業員一人一人が安全を意識し「無事故・無災害」を1日でも長く継続出来るように取り組んでいます。

登米市 NOW！

登米市森林認証取得支援事業について ～森林認証材の活用に向けて～

登米市では、平成28年12月13日付けで市有林2,716.59haのFSC森林認証F M認証を取得しました。

森林認証は、F M認証を取得した森林とCOC認証を取得した木材加工流通業者との連携による製品流通が必要であり、市内製材・加工業者等がCOC認証を取得する事によってはじめて、認証材としての出荷が可能となります。

このため登米市では、COC認証の取得等を行う市内の製材・加工業者等に対し、認証経費の1/2を補助する「登米市森林認証取得支援事業」を創設しました。

1 事業の目的

持続的な森林整備に向けて森林認証制度の普及を図るとともに、森林認証材の供給体制を構築し、森林認証材及び森林認証製品の販路拡大による市内産木材の需要拡大を図ることを目的としています。

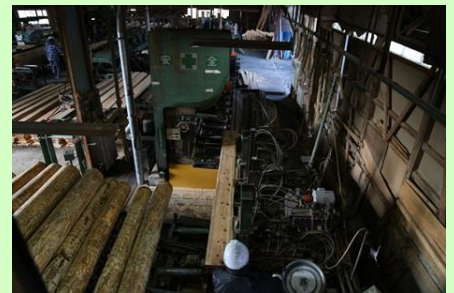
2 補助対象事業等

市内に事業所を有する製材業者、加工業者及び木材販売流通業者が行う、FSC森林認証COC認証の新規取得事業及び継続事業

3 補助対象経費及び補助金額

補助対象経費 … 認証機関に支払う審査に要する経費

補助金額 … 補助対象経費の1/2以内



製材所



製材品(津山杉フェア)

トピックス

木の香るディサービス施設

「平成28年度木の香るおもてなし普及促進事業」を活用し、登米市登米町で建築していた木造施設が完成しました。

株式会社G A T I が建築したディサービス施設で、名称は「ディサービス・わかば」。平成29年4月にオープン予定です。

同社では、利用者を温かい木づかいによる「おもてなし」で迎え、木の空間で安心して活動してもらいたいとの願いから、施設を木造としました。

木造平屋建で床面積は248㎡、木材使用総材積88㎡のうち48㎡に県産材を使用しています。また、腰壁や建具などの内装材にも木材を使用しており、木材使用総材積14㎡のうち11㎡が県産材です。

使用した県産材の大部分は、登米市産のスギで登米町森林組合が製材加工し、施工の大半を地元「登米」の建設業者が行うなど、地域と密着して建築されました。



「ディサービス・わかば」



施設内部



内装

予防治山工事が完成しました

県が発注し、東和町米川字力畑地内で行っていた「力畑地区予防治山工事」が平成29年1月に完成しました。

当該箇所は、平成24年5月に発生した豪雨により山の斜面が崩落し、近くの住宅・農地・県道などへの土砂流出が危惧され、早期の対策が望まれていたものです。

平成26年度に工事に着手し、崩落した斜面を整形し安定させる山腹基礎工や、早期に森林に回復させる山腹緑化工などを行いました。

完成直後のため緑が目立ちませんが、時間の経過とともに草木が生えてきて、いずれ森林に戻ることでしょう。

主な工事内容

工種	種別	事業量
山腹基礎工	法切工	V = 862㎡
	コンクリート土留工	L = 30m H = 2.5m
山腹緑化工	柵 工	L = 143m
	筋 工	L = 576m
	伏 工	A = 2,488㎡
	植栽工	N = 267本



施工前(災害発生時)



施工後(工事完成)

原木しいたけの産地再生に頑張っています！

震災後、放射性物質による影響で出荷制限がかけられていた登米市産の露地栽培原木しいたけですが、平成26年に県内初の出荷制限解除となり、その後も生産者の皆さんの頑張りはもちろん関係者の協力により、解除が進んでいます。

平成28年度には新たに1名が解除になり生産を再開したほか、既に生産再開している生産者についても計9ロットが解除になり、平成29年3月現在で5名（17ロット）が生産を再開しています。

原木しいたけの産地再生に向け、「安全で美味しい原木しいたけを消費者に届けたい」という思いで生産者一丸となって頑張っていますので、登米市産の原木しいたけを是非ご賞味ください！

原木しいたけ（露地栽培）出荷制限解除一覧 (H29.3.1現在)

生産者名	住 所	解除年月	ロット数
登米町森林組合	登米市登米町	H26.8(1), H27.2(1), H28.6(1), H28.12(1)	4
千葉 公明	登米市東和町	H26.8(1), H27.2(1), H27.6(1), H28.6(1)	4
芳賀 裕	登米市東和町	H27.2(1), H28.6(4), H28.11(2)	7
はんとく苑	登米市米山町	H27.2(1)	1
熊谷 茂雄	登米市東和町	H28.4(1)	1

※ 解除年月の()はロット数



「みやぎ原木しいたけ生産再開感謝の集い」

日時：H29.1.31
場所：ホテルオパレス仙台
主催：宮城県特用林産振興会
県林業振興課

県内の原木しいたけ生産者が、生産再開に支援いただいた方々に感謝の気持ちを込めて、これまでの取組や現状の報告、消費者等との交流を行いました。

ふるさとの自然案内

登米市の多様な自然環境を象徴する、国立公園・県自然環境保全地域・登米市自然環境保全地域……。身近にある素晴らしい自然について、職員が実際に足を運び、その感想を交えて紹介していきます。

登米市の鳥「はくちょう」

「はくちょう」は、伊豆沼をはじめ、登米市内各地に飛来し、冬の使者として、また、家族や仲間の絆を大切にする鳥としても知られており、登米市の自然・環境保護の象徴として、「はくちょう」を市の鳥としました。

(登米市ホームページより)

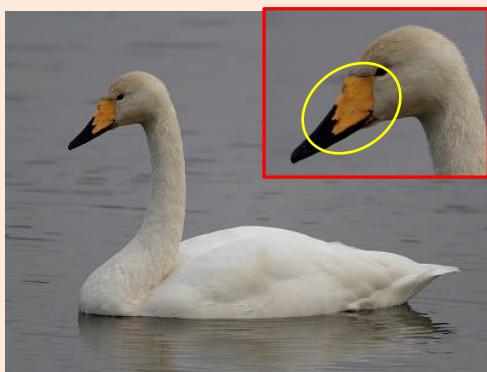
今回は登米市の鳥に制定されているハクチョウの見分け方を紹介します。

登米市に渡ってくる主なハクチョウの仲間は「オオハクチョウ」と「コハクチョウ」の2種類ですが、すぐに見分けられるでしょうか？ 名前の通り大きいのがオオハクチョウで小さいのがコハクチョウですが、並べて比べないと大きさで見分けるのは難しいかもしれません。識別方法はいくつかありますが、嘴による方法が最も判りやすいでしょう。

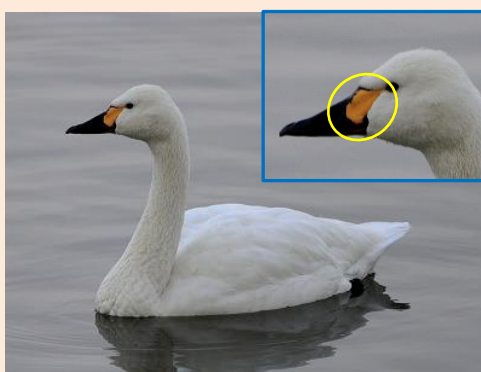
- 黄色部の面積が大きく、嘴先に向かって尖っているのが**オオハクチョウ**
- 黄色部の面積が少なく、嘴先に向かって丸みを帯びているのが**コハクチョウ**

今冬には希少種で嘴の黄色部がほとんどない**アメリカコハクチョウ**も渡って来ました。

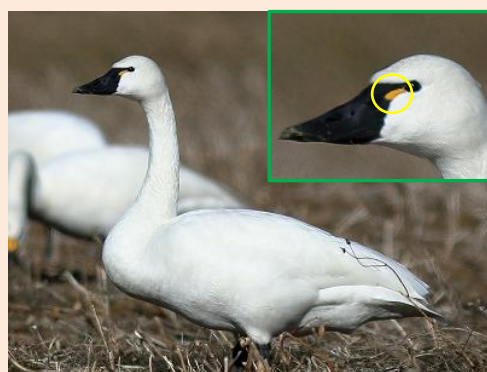
なお、どの種類も幼鳥の嘴はピンク色で、羽色は灰色がっています。



オオハクチョウ



コハクチョウ



アメリカコハクチョウ

コラム：目で見える登米の森林・林業

「本当にスゴイ!? 登米の森林・林業」

本誌第4号に掲載した東和木材センターの続報。震災復興への貢献を紹介します。このセンターには登米市だけでなく気仙沼市や岩手県からも原木丸太が集まり、供給先は石巻市や大崎市にまで及ぶ広域の集出荷が特徴です。

登米市の隣にある気仙沼市では、2000戸あまりの災害公営住宅の建設が進められていますが、そのうち約800戸の木造住宅には地元産のスギが使われました。センターでは、平成27年11月から翌年8月まで、原木丸太の一時保管と太さ別の選別管理を行ってきました、これは、気仙沼市で伐った丸太の置き場所が市内だけでは足りなかったことから、センターがその対応に協力したものです。

この間に受け入れた丸太の量はおよそ1200m³で、センターの年間取扱量の1割強に及び、住宅の柱材にすると約60戸分に相当します。センターを運営している東和町森林組合は、丸太の入荷時期と置場スペースとの兼ね合いや共販事業との調整を図りながら無事に任務を終え、被災者の住まいの確保に協力できました。

このほか、南三陸町の応急仮設住宅や登米市内の木造災害公営住宅の建設にも登米市の林業が寄与するなど、東日本大震災からの復興に多方面で貢献しています。



震災直後に建てられた南三陸町の木造応急仮設住宅。

既に撤去されたが、木材は再利用された。



登米市に建てられた木造の災害公営住宅。

沿岸部から登米市に移住された被災者も多い。



広域的な流通機能を担う東和木材センター

編集後記

- 平成29年度は宮城県の震災復興計画再生期の最終年度。ここ数年は住宅復興に伴い木材需要が増加しましたが、災害公営住宅の建築や自力再建が一段落し、今後は減少していくものと見込まれます。復興に代わる新たな木材需要をいかに創出するか？ 知恵の出どころです。
- 今回の「ハイ！こちら森林組合」のテーマは『労働安全』。最近は食の安全が話題になることが多いですが、何事においても安全は最優先すべき事項です。安全対策にやり過ぎということはありません。関係者一丸となってゼロ災を目指して頑張りましょう！
- 今号の発行には「宮城北部流域森林・林業活性化センター登米支部」に協力いただきました。同センターは川上から川下まで連携した取組を推進しています。本誌でも川上から川下までの様々な情報を毎号お届けしたいと思っています。



このパンフレットの印刷に伴い排出された温室効果ガスは、登米市及び米川生産森林組合等が森林整備により創出したJ-VERクレジットによりカーボン・オフセットされています。

バックナンバー

検索

登米地域事務所 登米の森林から

登米の森林から 第7号

2017年3月

宮城県東部地方振興事務所 登米地域事務所 林業振興部
〒987-0511 登米市迫町字西佐沼 150-5

